

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 22日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	中村 晃
研究課題	自己愛に関する心理学的研究				
研究キーワード	自己愛・承認欲求	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究では、まず自己愛や承認欲求に関する文献調査、および自己アピールや自己呈示に関する文献調査を行った。文献調査を行っていく中で、インテグラル理論が本研究にとって有用な理論的枠組みの一つとすることが示された。

不健康な自己愛とは「他者からの評価に対する執着」でとらえることができるが、これは承認欲求と関係が深いことが考えられる。しかし、これまでこの承認欲求と自己愛との関連については明らかになっていない。これに関して、近年、Wilberによるインテグラル理論が注目されている。インテグラル理論では、人間の意識は利己的段階、自集団中心的段階、合理性段階、相対主義型段階と発達していき、意識の発達を、自分の意識が前の段階を包括して超えていきさらにそれをまた包括していく過程の連続、としている。これに関してGardnerは、人間の発達とは自己中心性が減少していくことと考えられると述べ、自己愛の減少と意識の拡大のプロセスとして発達を捉えている。つまり発達心理学では自己愛（ナルシズム）への執着を乗り越えていく必要性が指摘されている。そのため、承認欲求と不健康な自己愛との関連、およびその不健康な自己愛の克服過程を、インテグラル理論から検討をすすめていく方向性が見いだされた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

特になし

3. 主な経費

研究のための書籍の購入、データの処理をするためのパソコンと印刷するためのプリンタ

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし